

鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 29 年 10 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2 - ）

大分県監視カメラによる観測では、9日に伽藍岳で噴気が稜線上 200mまで上がりましたが、それ以外の日には噴気は認められませんでした（9月：なし）。

- ・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）

火山性地震の月回数は3回（9月：1回）と少ない状態でした。このうち震源が求まった火山性地震は2回で、ともに鶴見岳北側 2 km の深さ 2 ~ 3 km 付近に分布しました。

火山性微動は 2010 年 11 月の観測開始以降、観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS¹⁾連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 噴気の状況（大分県監視カメラによる）

左図：10月9日の状況（図中の緑丸は伽藍岳の噴気）

右図：10月25日の状況（静穏時）

大分県監視カメラによる観測では、9日に伽藍岳で噴気が稜線上 200mまで上がりました。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 11 月分）は平成 29 年 12 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

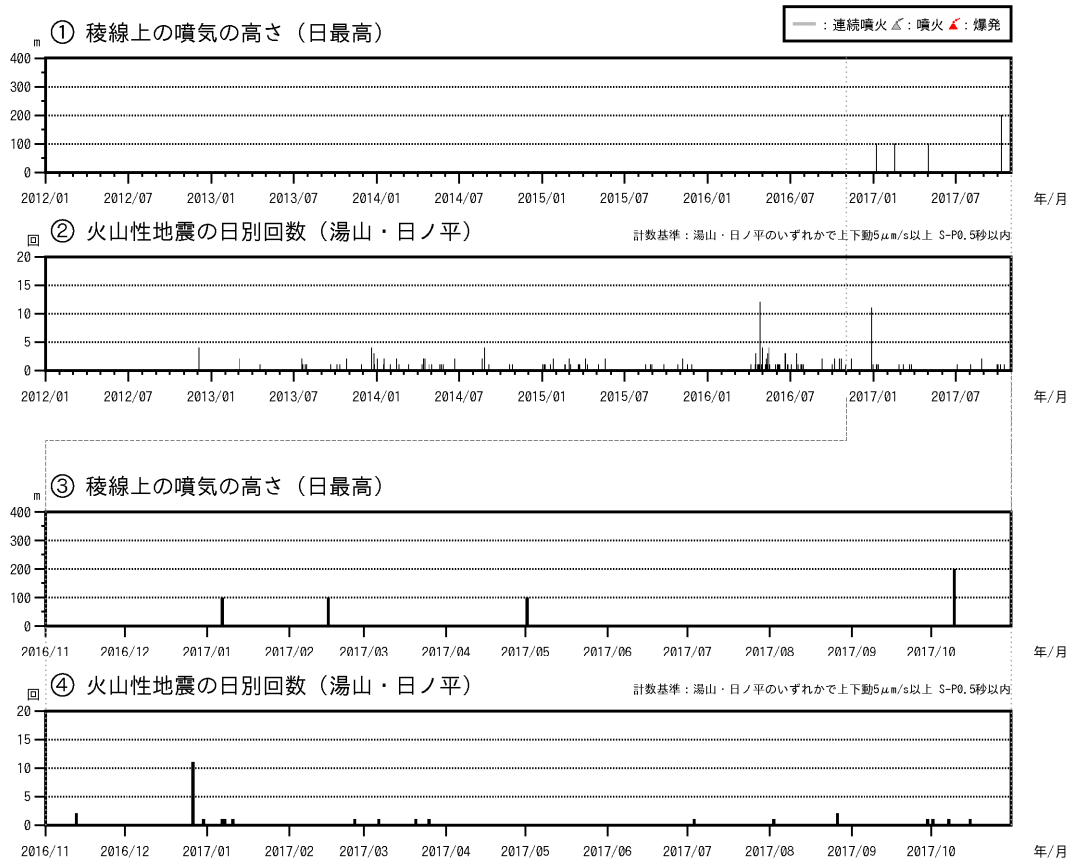


図 2 鶴見岳・伽藍岳 火山活動経過図（2012 年 1 月～2017 年 10 月）

< 10 月の状況 >

- ・ 9 日に伽藍岳で噴気が稜線上 200m まで上がりましたが、それ以外の日には噴気は認められませんでした。
- ・ 火山性地震の月回数は 3 回（9 月：1 回）と少ない状態でした。
- ・ 火山性微動は 2010 年 11 月の観測開始以降、観測されていません。

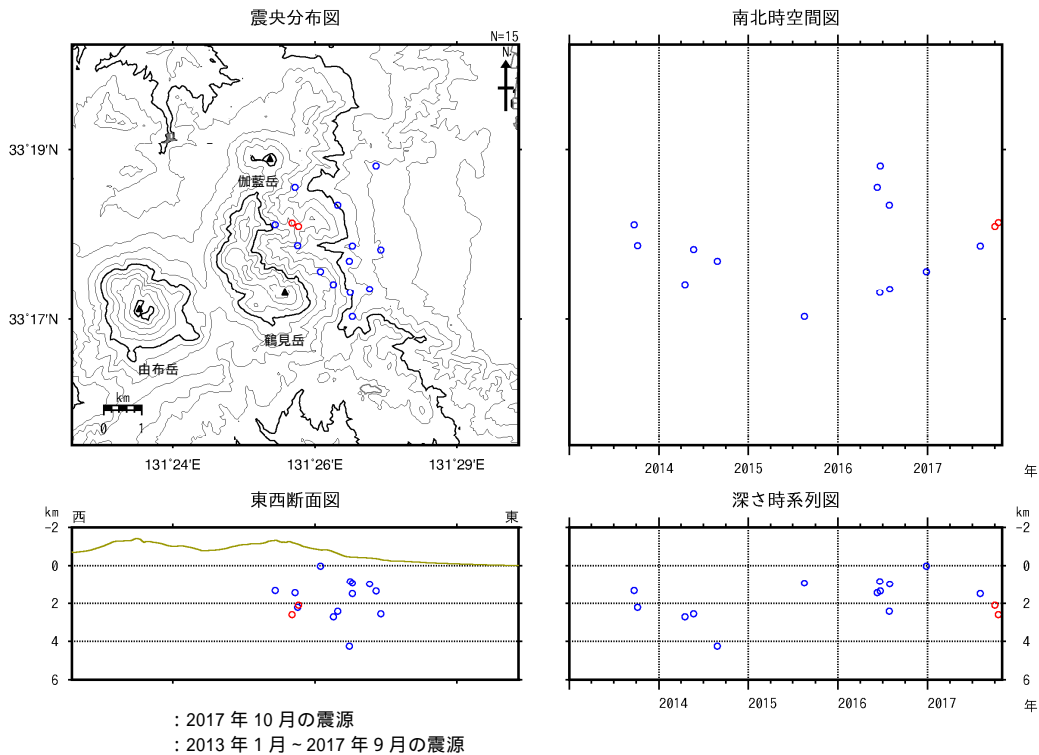


図 3 鶴見岳・伽藍岳 震源分布図（2013 年 1 月～2017 年 10 月）

< 10 月の状況 >

震源は、鶴見岳北側 2 km の深さ 2 ~ 3 km 付近に分布しました（東西断面図）。

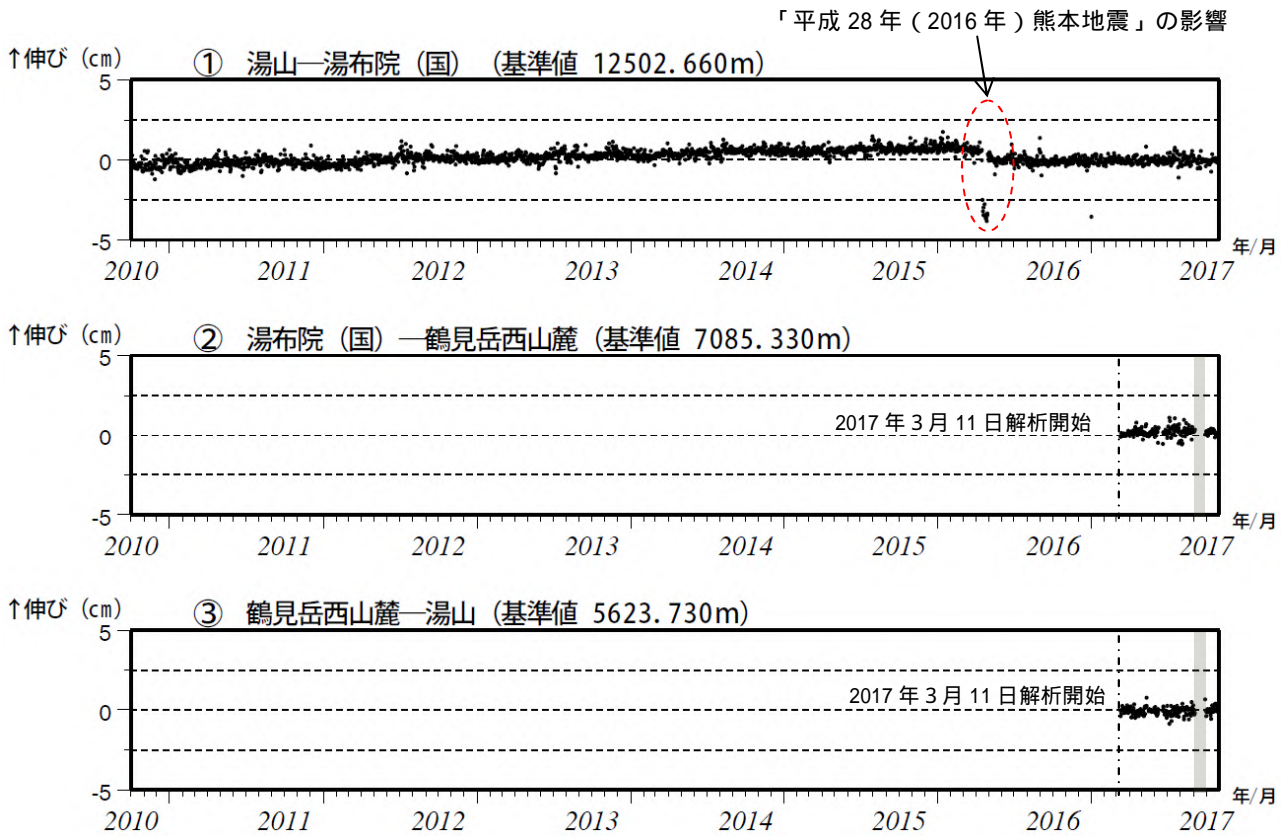


図 4 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2017 年 10 月）
GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 5 の ~ に対応しています。

灰色部分は観測点障害のため欠測を表しています。

2016 年 4 月 16 日以降の基線長は、平成 28 年（2016 年）熊本地震の影響（図中の赤破線）による変動が大きかったため、基準値に合うように調整しています。

（国）：国土地理院

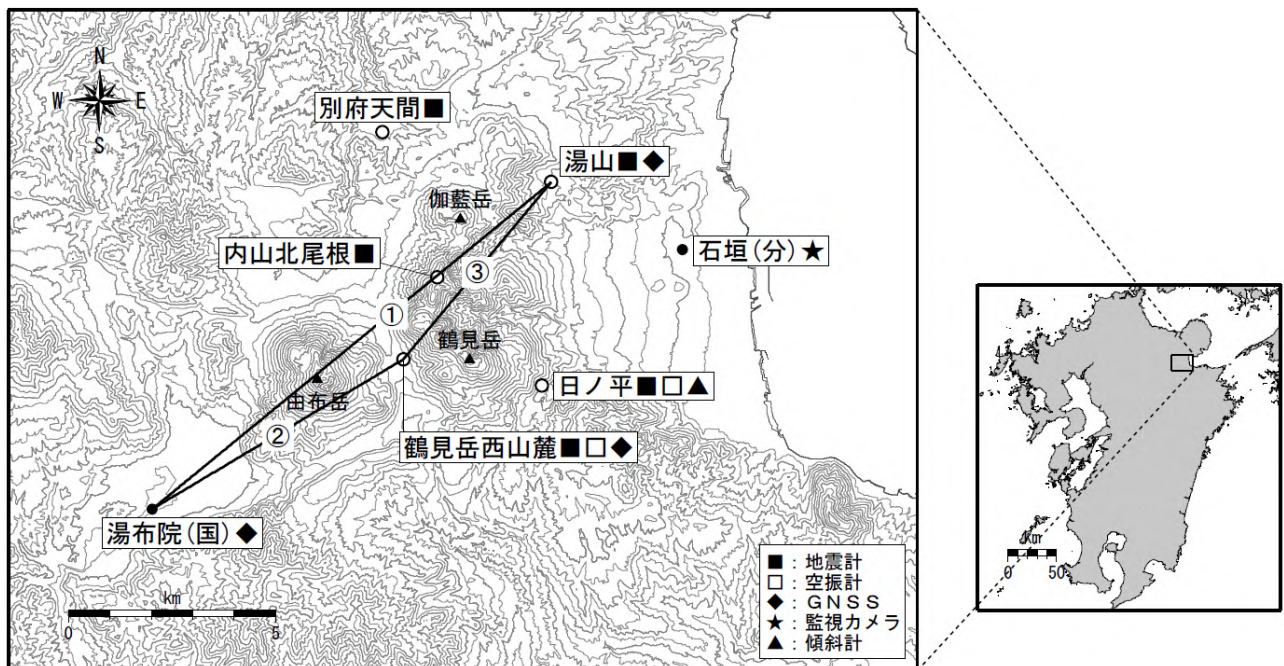


図 5 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図と GNSS 連続観測による基線番号

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

「石垣（分）」は大分県監視カメラを示しています。